

# メタル床版橋「角太橋」

## 受注累計200橋突破

### 新日鉄住金エンジニアリング

新日鉄住金エンジニアリング（社長・藤原真一氏）の建築・鋼構造事業部（事業部長・竹内貴司執行役員）が販売するメタル床版橋「角太橋（かくたばし）」の受注が2005年からの累計で200橋を突破した。角形鋼管を床版に用いた構造で、コンクリート橋に比べ軽量化と施工性が向上。また、門型ラーメン形式の導入による上下一体構造で従来比約3割のコストダウンが可能となった。道路橋など採用件数は年々拡大しており、コンスタントに年間1千本の受注を目指していく。

構造高も特徴だ。使用重機を小型化できるため都市部の狭隘地や急速施工に威力を発揮し、トータルコストも抑制できる。素材の角形鋼管は日鉄住金建材から仕入れている。採用実績は旧新日本製鉄が販売していた5年間で100橋を突破。新日鉄住金エンジニアリングに移管した10年からは3年間で50橋を受注したが、この2年間では50橋と採用数が急増している。架け替え需要の比率が年々増加しており、低構造高と下部工の再利用・急速簡易施工で威力を発揮。発注者別では市町村47%、都道府

採用された北浜4号線1号橋（愛媛県今治市）



県27%で、市町村管理の小規模橋梁での採用が多い。13年度には門型ラーメン形式を導入。鋼管のサイズダウンや杭本数削減、支承や伸縮

## 市町村の小規模橋梁で採用拡大

装置の省略を実現したほか、橋長が最大20倍に拡大した。また、概略設計ソフトを開発し、自動的に最も適切なサイズを割り出すことが可能となった。ソフトはウェブサイトからダウンロードでき、設計コンサルタントなどが活用しているという。

施工が容易なため各地域に委託加工ファブリークーターを配置することで、地元のゼネコンとファブによる地産地消を実現するなど地域経済にも貢献している。同社ではインフラ老朽化対策に効果的な経済性などをPRしながら、今後も採用拡大を図っていく。

